

## 研究紹介 *Rhif 9*

### Morris Jones (1970) 'Preliminary Outline of the Finite Verbal Phrase in Welsh', *Studia Celtica* 5: 94-147

奥村朋恵

本論文は従来からの偏りのある伝統的な動詞句研究とは離れて、より体系的な説明を目指すという立場に立って書かれている。具体的には、以下四点が論文の特徴として挙げられる。

- ・ 書き言葉の（北部）ウェールズ語を中心に話し言葉を重視する
- ・ 助動詞の十分な説明を含めた全ての動詞句形式を扱う
- ・ 迂言形式（助動詞を用いた述部）と屈折形式（語彙動詞を活用させた述部）の間にある体系的な関係について説明する
- ・ 時制重視の分析にかわって、モダリティーを重視する

#### 1. 始めに

分析を進めるにあたり、動詞句の構成を

$\pm$  助動詞（複数可） $\pm$  アスペクトマーカ（複数可） $+$  語彙動詞

とし、語彙動詞（lexical verb）はウェールズ語動詞句における必須要素と見なす。（その際、語彙動詞が屈折する。また、助動詞がない場合はアスペクトマーカもなく、助動詞がある場合アスペクトマーカは有り得る。）

#### 2. 分析項目

動詞句を包括的に例示することを目的に、7つの助動詞（BOD (be)・GWNEUD (do)・CAEL (get)・MEDRU (can)・GALLU (can)・DDARU (過去を標示)・DYLA (should))、2つのアスペクトマーカ（主にYN (継続)・WEDI (完了))、語彙動詞の屈折語尾-ODD (過去)・-AI (非過去)を組み合わせてできる動詞句を、三つのセットに分類している。形式の面で、セット1で用いられる助動詞が同じ動詞句内においてセット2の助動詞に先行するが、その逆はない。セット3は条件法で用いられる動詞句のみが含まれる。また各セットに含まれる動詞句は、時制（過去／非過去）、アスペクトマーカ（YN/WEDI）との共起関係、機能（事実の叙述／話者の態度、意図を表わすモダリティーの各意味特徴）の面から分析される。

#### 3. セット1

セット1の動詞句は時制の差異が強く影響し、事実の叙述とモダリティーの両方（モダリティーは未来形に関係するもの）が含まれる。対象となる動詞はBODの活用パラダイム(MAE (is)・OEDD (was)・BU (was)・BYDD (will)・BYDDAI (would))他。そのうち、事実の叙述は時制とアスペクトを中心に、

モダリティーは意味特徴によって以下のように分類される。同じ動詞句が事実の叙述とモダリティー、モダリティーの各意味特性の両者にまたがることもある。

事実：	非過去		MAE
	過去	無標 +アスペクト	OEDD
		-アスペクト	GWNEUD、DDARU、-ODD
		有標	BU
	習慣 (非過去)		BYDD
	過去		BYDDAI
モダリティー：			
	予測 (prediction)		BYDD、WNEITH (will)、-ITH
	結論 (conclusion)		WNEITH、-ITH
	意志 (volition)		WNEITH、-ITH
	命令 (imperative)		WNEITH、-ITH
	傾向 (likelihood)		DYLAI
	義務 (obligation)		DYLAI

#### 4. セット2・3

セット2に含まれる動詞句は、モダリティーの意味特性によって以下のように分類される。 (p. 137)

		WEDI	YN
MEDRU、 GALLU：	可能性 (Possibility)	+	+
	身体的可能 (Physical possibility)	-	-
	能力 (Ability)	-	-
GALLU：	許可 (Permission)	-	+
CAEL：	偶発 (Eventuality)	+	+
	提案 (Suggestion)	+	+
	許可 (Permission)	-	+

アスペクトマーカの WEDI、YN と共起するもの (可能性、偶発、提案) は文修飾的 (sentential)、共起しないもの (身体的可能、能力) は非・文修飾的、両方が混じるもの (許可) は命題の特性のみが WEDI と共起し、事実を述べる表現になる。セット3は仮定、条件に限った表現で、上記のセット1と2

を総合した基準で各動詞句を分類している。

#### 5. 6. まとめ

ウェールズ語の動詞句を①条件文／非条件文、②モダリティー特性、③時制特性で分類していくことで、それぞれの活用パラダイム、迂言形式と屈折形式で現れた場合の違いを概観している。迂言は性質 (*dispositional*) を、屈折は個別の出来事 (*episodic*) を表わす傾向にあるが、それは類似した他の動詞句の意味特性や方言によっても異なる。